

製品名: Rag A/B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16859**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	34kDa

抗原情報

遺伝子名	RRAGA/RRAGB
別名	RRAGA; Ras-related GTP-binding protein A; Rag A; RagA; Adenovirus E3 14.7 kDa-interacting protein 1; FIP-1; RRAGB; Ras-related GTP-binding protein B; Rag B; RagB
遺伝子 ID	10670/10325
SwissProt ID	Q7L523/Q5VZM2
免疫原	抗血清はヒト RRAGA/B 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 264-313

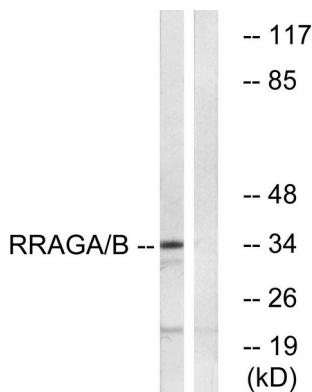
背景機能: RCC1/Ran-GTPase 経路に関与する。TNF- α シグナル伝達経路において直接的な役割を果たし、細胞死を誘導する可能性がある

る。また、TNF- α 機能阻害因子であるアデノウイルス E3-14.7K の細胞標的として作用し、細胞死に影響を与える可能性がある。グアニンヌクレオチド結合活性を有するが、内因性 GTPase 活性は検出されない。、類似性: GTR/RAG GTP 結合タンパク質ファミリーに属する。、細胞内局在: 主に細胞質内に存在する。結合ヌクレオチドの状態に応じて、細胞質と核の間を移動する可能性がある。生体内ではアデノウイルス E3-14.7K と共局在し、主に細胞質、特に核膜付近に存在し、また細胞膜上またはその付近には不連続な焦点を形成します。、サブユニット: ホモ二量体として存在する場合もあれば、配列非依存的に RRAGC または RRAGD とヘテロ二量体を形成する場合があります。GTP に結合します。GTP 結合型の RRAGA は NOL8 と相互作用します。アデノウイルス E3 14.7 kDa タンパク質と相互作用します。、組織特異性: 普遍的に発現し、骨格筋、心臓、および脳で最も高いレベルで発現します。、機能: RCC1/Ran-GTPase 経路に関与します。細胞死の誘導につながる TNF- α シグナル伝達経路に直接関与している可能性があります。グアニンヌクレオチド結合活性を有するが、内因性 GTPase 活性は検出されない。、類似性: GTR/RAG GTP 結合タンパク質ファミリーに属する。、細胞内局在: 主に細胞質内に存在する。結合したヌクレオチドの状態に応じて、細胞質と核の間を往復する。生体内では、アデノウイルス E3-14.7K と共局在し、主に細胞質、特に核膜近傍に局在し、細胞膜上またはその近傍には、特定の場所に局在する。、サブユニット: ホモ二量体として存在する場合もあれば、RRAGC または RRAGD と配列非依存的にヘテロ二量体を形成する場合があります。GTP に結合する。GTP 結合型の RRAGA は NOL8 と相互作用する。アデノウイルス E3 14.7 kDa タンパク質と相互作用する。、組織特異性: 普遍的に発現し、骨格筋、心臓、脳で最も高い発現レベルを示す。、

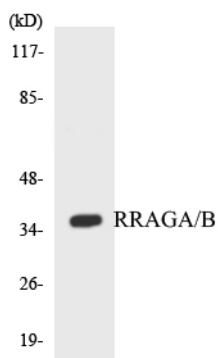
研究分野

mTOR

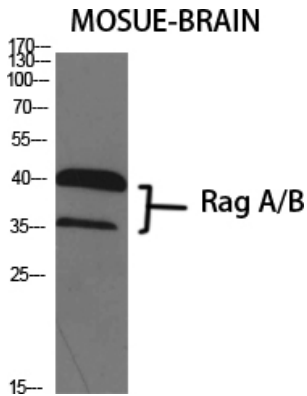
画像データ



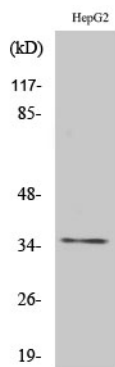
RRAGA/B 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



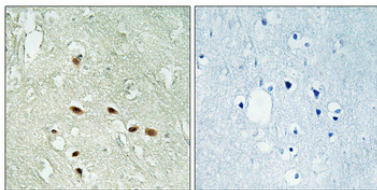
RRAGA/B 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



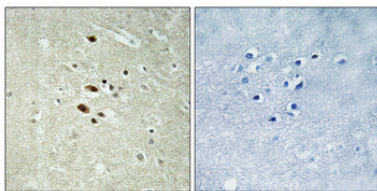
1: 1000 に希釈した Rag A/B ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



Rag A/B ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。